

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（11月定例会）
開催日時	令和6年11月22日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：伊尻委員、小野委員、樫出委員、川原議長、河野委員、坂内委員 酒見委員、高橋委員、谷関委員、松本委員、米村委員 事務局：大内社会教育課長、吉野社会教育係長、野田主事
議題	(1) 提言の目次案及び執筆分担の確認 (2) 提言の項目ごとの内容の検討
配付資料	
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1）提言の目次案及び執筆分担の確認

○議長：このことについて事務局から説明をお願いしたい。

○事務局：提言の目次案及び執筆分担の確認について、参考資料1をご覧ください。
目次は、章として「はじめに」「1章新たな時代の社会教育」「2章社会教育で学ぶ多様な人々」「3章社会教育におけるネットワークづくり」「まとめ」となっている。2章の中には節として「1節 学ぶ人」と「2節 支える人」があり、それぞれの節の中に4つの項が入っている。執筆分担についても10月定例会で決めていただいた担当者名を入れている。ご確認いただきたい。

○議長：目次案や執筆分担について質問や意見等はあるか。

○委員：「困難に直面する人」を担当することになったが、不登校については、困難に直面する人に入れることが適切なのだろうか。「子供・中高生」に入れた方が良いのではないか。

○議長：困難に直面する人に不登校を入れていいものなのかというご意見を頂いた。
タイトルとしては出さずに、「子供・中高生」に入れてもいいのではないか。

○委員：同意である。

○議長：1点提案だが、①困難に直面する人を④番目にするのはどうか。

○委員：同意である。ただ、「困難に直面する人」という表現が気になる。

○議長：「多様な学び手」と変更し、①子供・中高生、②若年層、③高齢者、④多様な学び手とするのはいかがだろうか。

一同同意

○議長：他にご意見等あるか。

○委員：④多様な学び手の中に社会教育に届きにくい人についての記載も入れてほしい。

○議長：他にご意見等あるか。

一同意見等なし

議題（２）提言の項目ごとの内容の検討

○議長：このことについて事務局から説明をお願いしたい。

○事務局：先程確認いただいた、目次案と執筆分担をもとに、項目ごとの内容の検討に入ってください。

今回の定例会では「はじめに」「１新たな時代の社会教育」「２社会教育で学ぶ多様な人々」のうちの「（１）学ぶ人」についてご意見を頂きたい。

こちらについては、１１月定例会の資料送付の際にも、依頼させていただいたので、事前に検討いただいた内容も併せてご意見いただきたい。

皆様からのご意見をもとに執筆担当者が執筆をされるので、積極的なご発言をお願いしたい。

○議長：事務局からも説明があった通り、皆様からのご意見をもとに執筆担当者が執筆をされるので積極的なご発言をお願いしたい。

また、１０月定例会でもご説明したが、それぞれの項目の中に現状や課題、問題意識を述べ、その問題意識に対して「こうあってほしい」というような対応策や支援策を述べるようなイメージを持ちながら、内容の検討についてご意見いただきたい。

○議長：まず、現状については世界の潮流や、西東京市教育計画策定のためのアンケート調査や生涯学習に関する世論調査を参考にしながら取り入れていきたい。現状について他にご意見あるか。

○委員：コロナ禍で学ぶ場所がなくなってしまった状況を振り返った時に、公民館ではオンラインでの学習に早く着手したイメージがある。その中での気付きとして、講師やゲストスピーカーがオンラインで登壇いただく際、本来では交通費を出してお呼びしていた方々を講師謝礼のみで依頼することができるようになり、オンラインの活用で可能性が広がったこと

が挙げられる。オンラインを活用しながら学びを継続させるという点も提言に入れていきたい。

○委員：コロナ禍を経験してオンラインの良さについて気付いた面もあるが、対面の良さについても提言に入れていきたい。また、コロナ禍を経験したことや社会の変化に伴い、家庭教育、学校教育、社会教育の連携の仕方の変化も示す必要があるのではないか。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動が進み、学校を取り巻く地域社会が変わりつつあると考える。

○議長：学校もカリキュラムマネジメントの観点から地域社会の意見も取り入れながら、カリキュラムを考えていく。その観点からも地域との連携を大切にしている状況があると考え。

○委員：カリキュラムマネジメントについて詳しく聞きたい。

○委員：社会に開かれた教育課程ということで、子供や地域の実態を把握し、総合的な学習の時間を核として他教科の連携など、横断的な視点を持ちながら教育課程を編成・実施・評価し、組織的かつ計画的に推進していくことである。例えば国語の授業で4月にお手紙を書く学習、総合の時間で10月にゲストスピーカーが来る学習があった場合、国語のお手紙の学習を10月にして、ゲストスピーカーに御礼のお手紙書く際に活かすなど、カリキュラムを工夫し、他教科とのつながりを考えていくことが挙げられる。

先程、家庭教育の話があったが、学校運営協議会で、社会の変化の中で家庭教育が大切であるという話が挙げられた。例えば、塾や習い事等で寝る時間が安定していない児童や、朝食を食べない児童がいる状況があり、子ども食堂の朝食版も必要ではないか、家庭教育にも何か力を入れていく必要があるのではないかな等の意見が挙げられた。

また、不登校については長期欠席者という大きな枠組みの中に、病気で休む児童、不登校で休む児童、経済的困難な児童、その他と分けられている。オンラインの活用ということで不登校の児童がオンラインで授業に参加している状況もある。また、発表会のダンスの練習等、不登校児の対応以外の場面でもオンラインの活用がされている。

○議長：続いて、第2章社会教育で学ぶ多様な人々のうち（1）学ぶ人①子供・中高生について、意見をお願いしたい。

○委員：部活動の地域移行の動きがあるが、平日の夕方に部活動の指導ができる地域人材や団体があるのか。地域学校協働活動やふるさと探究学習、学校教育だけ地域とともに学ぶような取り組みにも触れていきたい。

また、公民館の場作りについても触れたい。お祭りのボランティア、子供向け講座の様な学びの場、学びながら問題を考えるような場があり、居場所になっている。公民館の活動は無料である。ダンススクールなど学びの場や活動の場を公民館が提供していることも触れたい。また、子供たちの生活の範囲内を考えると公民館、図書館、児童館、地域の方が活動しているものであれば放課後カフェ等がある。子供たちの地域の間や活動の間を整理したい。そして大人にも言えるが、主体的に関わっているボランティアスタッフの子供も活動者が一緒であることが課題の様に感じる。担い手不足が課題である。

また、子供向けの事業に関して多くあると思うが庁内で他部署の事例が共有されていないことも課題であると考え。

○議長：②若年層について意見ををお願いしたい。

○委員：社会教育の学びにつながりにくい子育て世代の学びをどのように公民館が保障しているかについて、保育室を公民館の中にどうして作ったかという歴史的な背景にも触れていきたい。また、時代の変化によってお母さんたちが今は職場に戻るサークル化できないという公民館の悩みについて、時代の変化にも触れたい。課題として、保育室の使用条件等の課題について提言していきたい。

就労世代が公民館がどこにあって何をしているか分からないという声を聞いたことがある。普段公民館を使わない人にどのように知ってもらうかを考えたい。公民館専門員から聞いた話の中で、「就労世代向けの事業を過去に実施したが、参加者数は集まらず、手法を工夫したら参加者が集まった。」という事例にも触れたい。

大学生についてはボランティアスタッフで関わってくれる学生もいる。大学生がどのように社会教育につながっているかも入れていきたい。

○委員：大学生も親からの紹介からはじまり、友達同士の紹介で少しずつ広がっているケースがある。子供たちとどのように関わっていけばよいか不安がある学生もいるが、ゲームを通して交流している姿を見る。

○委員：大学のサークルの中には、まつりや各種イベントに協力を活動としているボランティアサークルなどがある。協働コミュニティ課の市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門では申請者のほとんどが大学生であり、様々な活動を企画してくれた。ボランティアという形とは違うが、地域に根差した活動をされている学生も多い。

○議長：③高齢者について意見ををお願いしたい。

○委員：高齢者の中でeスポーツをやられている人がいて関心がある。公民館や福祉会館などで活動されている方がどのようなことを求めているのかを調べていきたい。また、旧ひばりが丘中の跡地の意見会では若い人たちとつながりたいという意見があった。クラブ活動的な異年齢が集えるような場所があるといいのではないか。理想としては川崎市子ども夢パークの様ななんでもできる空間、閉鎖的な空間ではない場所だけでも、見守りの人がいて、さらに人を繋げられる団体や人がいることが望ましい。

○委員：高齢者の中には色々なスキルやキャリアを持っていて、活かしたい人は多いと思う。誰に相談していいのか、公民館は行ったことがない人もいると思う。公民館、図書館以外の情報を得られる場所、立ち寄れる場所についても触れてほしい。

○委員：高齢者ばかりではないが、自身のスキルやキャリアを公開し、スキルを求める方が連絡をとれるようなマッチングサイトがある。

○議 長：④多様な学び手意見をお願いしたい。

○委 員：外国籍について、イングビルの多文化共生センターではいろんな人が聞きに来た時に対応できる。市から来た案内の翻訳等も対応している。

日本語を教える場所が市内には8箇所あり、対象は大人である。課題としては人手不足、予算、広報があげられる。LGBTQ+については、情報をいただきたい。

○委 員：LGBTQ+について、講演など市内で活動されている団体はある。

全体的に関わることだが、地域参加のトビラという団体も参考になるかと思う。

○委 員：障害者については、公民館に障害者青年学級がある。人手不足や、2箇所しかないこと、卒級がないことから入りたいけど入れない等の課題もある。その課題も入れていただきたい。

○議 長：次回定例会では「2 社会教育で学ぶ多様な人々」のうちの「(2) 支える人」以降についてご意見いただきたい。

次回会議

日時 令和6年12月20日(金) 午後2時

場所 田無第二庁舎 5階会議室